

# なみびあ通信

第3号

2019年12月3日

カメル小学校 福島嵐

南部アフリカのナミビアから、このおたよりを書いています。ナミビアの学校は、11月26日で3学期が終わり、1か月以上にわたる長いお休みが始まりました。2021年の1月までカメル小学校で活動する私にとって、今が折り返しという気持ちです。今日は私の活動の内容と子ども達の様子についてお届けします。

私はカメル小学校に配属され、一教員として授業を担当しています。授業を行いながら「この学校、子ども達の課題は何だろう?」と考え、学校を少しでもよくしていくために工夫するのがお仕事です。「あなんじゃないか、こうなんじゃないか」と仮説を立てては実践し、検証していく日々を送っています。2019年は、算数、理科、アーツのクラスを担当していたので、今回はそれぞれのクラスについて紹介します。

## 算数クラス

1学期の終わりから6年C組の算数の授業を担当していました。6年生でも指を使って足し算をしたり、棒を描いてかけ算の答えを求めたりしていました。一番気になったのは、「解き方が分からなくても丸がもらえればいい」と思っている子が多く、人の答案の丸写しが横行してのことでした。「とにかく、どうやって解くのかを考えることが大切なんだよ」と何度も何度も伝えてきました。

基礎の計算の力を上げるために、計算カードを使ってみたり、考え方に着目するために図や具体物を用意したり、話し合いができるようにホワイトボードを使ってみたりしました。



[時間の表し方の学習]

## 理科クラス

2学期からは6年A組の理科の授業もスタートしました。授業を担当してみて感じた課題と障害は、英語、教科書や器具がないことです。子ども達は4年生から英語での授業を受けているとは言え、第一言語ではない英語で学ぶのは大変なことです。両生類、単子葉類、水力発電、浮力、光合成、気管支、他にもたくさんの言葉を英語で理解しなくてはなりません。問題を繰り返し解いて問題に慣れてほしいと思い、カードを用意したり、教科書を持っていなくても自習ができるよう、ノートを充実させたりしてきました。35人のクラスで教科書を持っているのはわずか5人。これがこちらでは当たり前です。



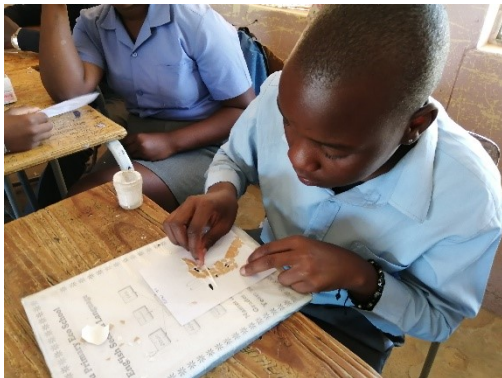
[物質が水に溶ける様子を観察]

## アーツクラス

アーツは、図画工作と音楽が混ざったような教科です。担当していたクラスは7年B組とC組。子ども達が自由に発想できて、表現を楽しめるように題材を工夫してきました。絵日記と文化紹介、折り染め、紙版画、フィンガーペイント、敷きつめ模様、モザイク画、歌やダンス、日本語の歌やソーラン節にも挑戦しました。手先が器用な子が多く、絵を描く時には細かいところまでじっくり描く姿に驚きました。



[ティッシュと食用色素で折り染め]



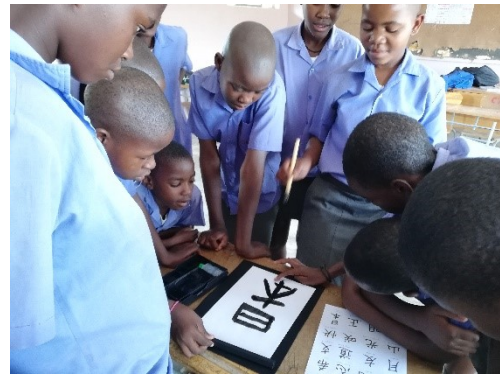
[集中して取り組んだモザイク画]



[卵の殻でキリンのモザイク画]

## 日本文化クラブ

7年生の子ども達を中心に、週に1度、日本文化クラブを実施していました。内容は日本語の挨拶、歌、ダンス、折り紙、竹とんぼ、書写などです。季節の行事としてひな祭り、鯉のぼり、七夕を体験したり、アニメを見た後にどら焼き作りをしてみたりもしました。学校の行事の時には発表の機会をもらい、ダンス、おはしの使い方、アルプス一万尺を紹介しました。オプウォの町には色々な民族の人々が住んでいることから、町の人達も子ども達も、「自分の文化も周りの人の文化も知ろう」という考えをもっていると感じます。



おはよう  
げんきです



長い休みの後、1月にまた子ども達に会えるのが今から楽しみです。